

## 「大学生活を通して」

人文学部行動科学課程 上之山博文

部活、サークル、アルバイト、友人との遊び、恋愛、ゼミ、卒業論文、そして海外研修etc 大学生活を振り返ってみると、本当に様々な経験をすることができた貴重な4年間だったと改めて実感します。

私が大学生活を通じて最も実感したこと、それは「出会い」が自分を成長させてくれた、ということです。書ききることのできない「出会い」を経験してきましたが、ここではバイトの先輩を少しだけ紹介しておきたいと思います。本人がよく口にしていた言葉として「大物」「根拠のない自信」「天才」etc。現在、某新聞社勤務、バンド活動の傍ら現在小説家を目指し執筆中。最終目的はトレジャーハンター。その人とは梅雨時期と一緒に新川に飛び込んだこともありました。

いろいろありましたが、卒業後も出会いを大切に、貪欲に吸収しながらまじめに将来を楽しんでいこうと思います。4年間お世話になった、出会ったすべての人々に感謝です。



## 『前途は洋々、友達は様々』

教育学部小学校教員養成課程 牛腸 育子

新発見を求めてか、孤独から逃れるためか。入学当初のあなたは友達づくりにせっせと励むでしょう。その努力の甲斐あってあなたにはきっとたくさんの友達ができるでしょう。しかし私の経験を言えば、そうやって知り合った友達とのつきあいをすべて維持するのは無理です。友達づきあいに使える時間、お金、そしてあなたの我慢にも限界があります。当然同じ友達でも親しさに差が出てきて、友達と知り合いの境界が曖昧になり、そもそも友達とは何かという疑問にぶつかります。

私はこの疑問を卒業論文のテーマにし、一つの結論を得ました。「友達づきあいは多様でOK」ということです。友達をつくらないのも一つの選択ですし表面的なつきあひも友達づきあひの一つです。友達づきあひはお互いがよりハッピーになるように創り続けていくものです。ですから「友達つらなきゃ」とあまり肩肘張らずに、お互いが居心地よいつきあひ方をみつけていってください。



前列右から2人目

## Feature : 学生生活



## 大学の使い方

人文学部地域文化課程 長島 由紀

これまでの人生における三大事件を挙げるとしたら、私にとってその一つは留学です。

入学当初から私は、海外生活と語学力を生かす職業に対する憧れがありましたが、ようやく受験勉強から解放されてみると、サークルとアルバイトに精を出す毎日。こんなときそろそろ居心地の良いぬるま湯から出る時だと教えてくれたのは、二年生の秋に聴講したある集中講義でした。それはアメリカ人の先生によるアメリカ文化と宗教に関する講義で、そのほとんどが英語で行われました。この時はじめて「手段・道具」としての英語を認識し、ぼんやりと描いていた未来の自分に近づくためには、まず英語という「道具」を自由に使いこなせるようになることが第一歩であると気づき留学を決めました。

できるだけ多く英語の授業に出席したり、親しい外国人の先生とお茶を飲みながら会話を楽しんだり、学外では国際交流のイベントに参加したり、できるだけ多く英語に触れる機会を作りました。一方では、自分にあった留学を見つけるために先生方や友人

を通じて情報を収集しました。

決意から2年後、私はアメリカに渡りました。そして今、5年前の漠然とした未来像は現実になりつつあります。人も情報も多方面から集まる大学の可能性は無限であり、私の人生においても大きな分岐点となりました。もし留学していなかったら…。私には、もう一つの未来像を想像することは出来ません。そして留学がこれからは私にとって重要な出来事であることは変わらないと思います。

あなたはどんな出来事を挙げますか？

## 大学生活で得たこと

大学院教育学研究科書道教育専修 本多 和宏

年を追うごとに加速的に時間が進んでゆく大学生活…。私は6年間、書道科に在籍し、書道が生活の中心であった。学部生の頃は、バドミントン部と書道科を、慌ただしく行き来し、部活動をした後に書展の作品を制作する生活が続いた。大学院に入学してからは、完全に書道中心の生活を送り、公募展出品、学会発表を2年続けて行うなど、大変有意義な2年間であった。

私が書道や部活動から得た財産は、ここに書き尽くせないが、その中でも特に、「成せば成る」という言葉を実践し、実感できたことは大きな自信になった。途中、行き詰まって苦しい時も多かった。しかし、「ここで限界だ。」と思わないように心がけ、自ら課題を立てて行動してみる。そして、やるからには徹底的にやることである。

このようにして、納得のいく六年間を過ごすことができた。その陰に、先生方や友人、両親など、多くの人の支えがあったことに感謝したい。



「胸中海嶽(きょうちゅうかいがく)」書道科展出品作

## “これからも。”

経済学部経済学科 三浦 広行

私が新潟大学経済学部で過ごした4年間は、思い起こせばさまざまなことに挑戦してきた日々でした。迷ったときは、“今自分にできることは何か？”ということを考えて、できるかぎり“自分のやりたいこと”をやってきたつもりですし、その過程で出会った多くの友人達と交流し、自分の視野を広げることができたことが、この学生生活一番の収穫でした。

そして、2年次から始まったゼミ活動は、周りのみんなと刺激しあって、自分なりに集中して取り組むことができたので、自分の学生生活の“軸”になったと自負しています。

新年度からは社会人となり、厳しい世界が待っているのですが、この4年間で得た経験を生かし、これからも前向きにがんばっていきたいと思っています。

最後になりましたが、今まで私を支えてくださった先生、友人達に感謝いたします。本当にありがとうございました。またお会いできる日まで、お互いお元気で！



学生生活： Feature



## 大学生活を振り返って

経済学部経済学科 萱場 龍一

早いもので、この大学に入学してから4年が過ぎようとしている。経済学部の夜間主コースに入学した私にとっては、長いような、短いような不思議な4年間であった。この間、昼間働いて、夜勉強するという生活であったが毎日が充実していた。

大学生活を振り返って、毎日が充実していたと言えるのも「時間」の大切さが重要だということを学んだからであろう。仕事、勉強、遊び、趣味、睡眠などすべてが私にとって貴重な時間であった。時間を有効に使うか、使わないかで毎日が充実したり、しなかったりする。どうせ同じ時間を過ごすなら、私は今ある時間を大切に、後悔しない毎日を送りたい。

最後に、私は、本当に多くの人達に助けられ、支えられてきた。周囲の人達からの協力なしではここまでやってくることが出来なかっただろう。お世話になった先生方をはじめ、両親、職場の上司や同僚、大学の友人にはこの場を借りてお礼を言いたいと思う。



## giveされてばかりだった

医学部医学科 宗村 紀子

長かった学生生活が終わろうとしている。医師を志す時期が人よりも遅かった為、私はクラスメイトよりも長い学生生活を送った。年下の友人達の中、頼られ事も多く、自然、自分の問題は自己処理する癖がついていた。卒後の進路決定も自分で決めたが、結果的には、直前で科を変更するという醜態を演じてしまった。そんな事の顛末を、仲の良いドクターに、何気なく話した。途端、真面目な面持ちで私の考え方の甘さを指摘された。突然のことに、私は驚き、次にむっとし、最後には、納得した。その人の心からの助言と理解したからだ。

それまで、私は、自分のことは自分が一番よく分かったと思っていた。他人に助言を求めるときでも、常に、最初から答えを持っていたように思う。しかし、他人の方がよく分かることもある。思えば、私の周りには、素敵な助言を与えてくれた人が、たくさんいた。年下の友人達の中にも。どうして、もっと耳を傾けて来なかったのか。これからは、私も与えられる人間になりたい。今まで与えられてきた、たくさん思いやりにも何らかの形で答えたいからだ。心底、そう思う。